請願第５号

松阪市議会議長　野口　正　様　　　　　　　　　　　　2012年 6月5日

# 障がい児施設の整備・拡充と収容規模の拡大を求める請願書


三重県度会郡玉城町宮古 726-17
三重県立特別支援学校玉城わかば学園
PTA会長　谷口　理恵
三重県立特別支援学校玉城わかば学園PTA会長印


紹介議員

松田俊助　海住恒幸　田中　力
西村友志　川口保　久松倫生　山本登茂治　佐波　徹　山本芳敬　田中祐治　小林正司

請願趣旨

初夏の候、貴職におかれましては、特別支援教育の振興、障がい児者の福祉サービスの推進と向上に深いご理解とご尽力を賜り、心よりお礼申し上げます。

さて、現在玉城わかば学園には、松阪市在住の児童生徒が88名（うち高等部47名）在籍しており、先生方の熱心なご指導のもと、卒業後において、個々に応じた自立生活ができることを目指して学習をしております。

卒業後の進路については、一般企業への就労、事業所の福祉就労などさまざまなものとなっていますが、松阪市内の状況は、一般企業への就労は極めて厳しいものとなり、且つ、福祉就労においても各事業所での受け入れが近い将来に飽和状態となることが予想されています。たいへん憂慮するところであり、私たち保護者としても一昨年来より松阪市長様に現状を訴え、将来的に安心して地域で暮らせるようにするための市政の推進をお願いする懇談の機会を重ねてまいりました。その中で、松阪市における障がい福祉計画のもと障がい福祉センター化構想への熱い思いを伺うことができ、保護者一同大変心強く思っているところでもあり大きく期待しているところです。

しかしながら、現状は、事業所によっては満員となったり、本校生徒の実習の受け入れが可能であっても卒業後の受け入れが難しいという事業所もあることを伺っております。さらに、地域福祉の中心的役割をはたす松阪市社会福祉協議会では、旧松阪市内には障がい者施設が全くないこと、既存の社会福祉協議会が運営する事業所の多くは就労継続Ｂ型のみであり、生活基本訓練など生活介護を必要とする生徒及びその両方の形態を希望する生徒にとっては受け入れがないことになり、松阪市民である子どもたちが地域でその人らしい生活を送ることができない事に大変不安を抱いています。

障がいを持つ生徒が将来にわたり住み慣れた地域でその人らしい自立した日常生活や社会生活を営むことができるために、進路保障は最も基本的で重要な課題です。私たちは、障がいを持つ子どもたちの保護者として、さらなる福祉サービスの充実にむけて下記について請願いたします。

記

1．松阪市において、障がい者が地域で支援を受けながら自立した日常生活や社会生活が送る事が出来るように、障がい福祉サービスの拡充と拡大をもとめるとともに、特に日中生活の場の確保へ特段の取り組みをしていただくこと。

そのために、社会福祉事業の中心的役割を果たす松阪市社会福祉協議会に対し、旧松阪市内に障がい者を支援する事業所の開設など、地域密着の地域福祉事業の展開をするように強く働きかけていただくこと。

松阪市議会事務局
受
24.6.-5
付
第 000238 号